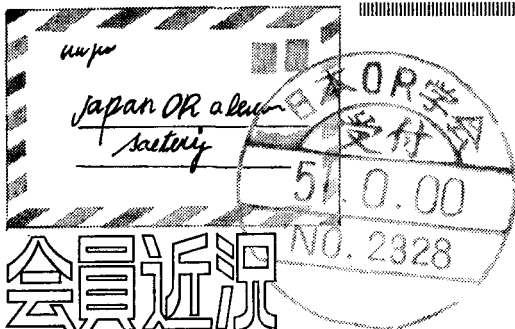




(株)ジャステック 西 敏和

技術者の新たな可能性 現在通信回線の制御システムや鉄鋼のプロセス制御システム関係の仕事をこなしています。会社の名前からして何をやっているのかわからない点があるかと思いますが若干説明いたします。

私の会社はソフトウェアの開発を主業としており、OS、コンパイラ等、ベーシックソフトウェアの開発とか、交通、流通、医療や試験装置に関連する制御システムの開発、また宇宙、海洋開発等に関連する工学系シミュレーションモデル開発などを行っています。

こういう仕事は人間関係によるところが大きく、人と人とのコミュニケーションや人と人との協力あるいは組織への参加意欲というものが生産性に大きく影響すると思います。私たちの会社は持株制度を基本に徹底した経営の民主化が行なわれており、技術者が直接経営に参加しています。いわゆるSEとしての仕事と、一方ではマネジメントに関する仕事を両立させることは、なかなか大変な面もありますが、われわれ技術屋の将来に新たな可能性を与えるものと信じています。

運輸調査局 システム部 村中 聖

交通と土地利用ポテンシャル 交通は土地利用によるさまざまな活動の媒体です。毎日の通勤輸送や衣食住に關しての生活必需物資の輸送を考えれば、このことは経験的にも十分明らかです。もちろん土地利用による活動を媒介する輸送力が、これにバランスした形で供給されていなければなりません。一昨年(1991)の12月に翻訳書「交通システム分析」を出版しましたが、この本は交通を土地利用ポテンシャルと輸送能力との結合物だという考え

方で、ORによる交通問題の解決法を述べたものです。

交通は日常生活に密着したものであるだけに、単に現象的な問題を追求してゆくだけでは不十分で、もっと現実に即して交通発生メカニズムを掘り下げ、土地利用による諸活動の円滑化をはかるための交通施設、交通制御や輸送計画などの問題に取り組むべくいろいろと努力している次第です。

統計数理研究所 鈴木義一郎

この本知ってる? 数学との異質性にポイントをおいた、ちっとは毛色が変わったORの入門書というふれこみで、「モデル解析術」という本を実教出版から世に出して1年、家でも建てようかとの皮算用がみごとにずれ、その売れ行きはやサッパリである。ORの基本概念である“モデル”という言葉が、意外に浸透してない事実を思い知らされた。小咄もあれば数式も入ってる、はたまたゴロアワセ的な解説ありで、一味マトマリを欠いてるくらいはあるけれども、ヘンな本であることは確か。お買い上げいただきたいとお願いするつもりはないが、ぜひかかる書物の存在をご認識いただけたら幸甚です。このようなスペースを自己宣伝に利用したりして、ちとズーズーンかったかな。まあ、オサエテ、オサエテ。

武蔵工業大学 経営工学科 有本 彰雄

いまの興味は… ORでは何も仕事をしていない私ですが、学生諸君の卒論の研究テーマを毎年1つは数理計画法から選んでもらうようにしています。おかげで今年はGomoryカットや分枝限定法などをちょっぴり勉強しました。また、週に1コマFORTRANの演習を担当しています。

さて、このごろとくに興味をもっているのは、フリーエ解析による方法で弱定常確率過程の種々の解析的性質を明らかにすることです。そのために、直交関数を項とする級数について知る必要があったので、さかのぼって調べていきました。独立確率変数を項とする級数の収束定理(1925)のKhinchineによる方法はRademacher列の級数の収束定理に類似しており、証明は関数論的です。同じ定理にKolmogorovはone page proofの別証を与えており、これは測度論的です。その他、Steinhausによる研究を含むポーランド学派のindependent

functionに関するものに出会いました。これらの論文を鑑賞しているうちに、Kolmogorovの公理系が確立される前でも結構確率論ができていたのだと思いました。

今後の研究課題としては、上記の他、Wienerの予測理論を勉強し、そのORへの応用などを考えてみたいと思っています。

松山商科大学 経済学部 松野 五郎

ORの空気にふれるたのしみ 愛媛県の私立松山商科大学で数学と統計学とを担当しています。当校は名高い松山城の北側にあって、天守閣を見上げる環境に恵まれた大学です。五十年余の校史中、学生ストは昭和45年にただ1回、それも日曜日を除くと実質3日で、学生自身がその無益を知って自主解除の経過をたどりました。

講義のほか演習(ゼミ)1、2が3年生と4年生に課せられています。ゼミ1には統計学をさらに勉強させ、ゼミ2にはORとか情報理論とかになじませるよう努力しています。

OR学会には春季の東京での発表会に出席して、1年に1度、東京すなわち日本の隆盛を見、ORの空気にふれることをたのしみにしています。ですから発表会の期日は大学の卒業式、入学式をさげ、ゴールデンウィークもさけて、旅行閑静期にしてください。

今年還暦です。

新日本製鉄 工作事業部 管理部 麻上 俊泰

エンジニアリング部門の効率化に取り組む 製鉄部門からプラント・エンジニアリング部門へ移って8年半になる。製鉄部門は装置産業であり、設備投資と設備の効率化が大きな関心事であった。ORもその面へ適用していた。そのために人間の要素よりも設備等のハード面へ注意が向いていたように思う。

エンジニアリング部門では、人間が主体であり、その頭脳と熟練をいかに効果的に組織するかが問題である。当初は工場の合理化に取り組んだが、現在は設計部門の効率化に取り組んでいる。設計は人間の頭脳、製作は熟練が中心となっているが、注意してみると単純作業がいかに多いかわかる。しかし、忙しさの中で標準化・機械化・自動化等が進められずに非効率の中でプラント類がつくられている。これは同業他メーカーも大同小異であ

り、人間という資源の無駄使いが繰り返されている。

今後ともこの方面の効率化を進めようと考えている。

大阪工科大学 工学部 応用物理学教室 西田 俊夫

新たに再出発を 私の研究室もちょうど満10年を迎え、先日卒業生一同相集い、ささやかなパーティを催した。この10年をふり返ってみても、たいした仕事もせぬ間に、瞬時にすぎ去った感がないでもない。しかしこれを契機にして、気分を新たに、今後のORの発展に少しでも役立つことができればと思っている。

また、現在私のところで関西支部の事務局を担当しているが、支部活動をいかにすれば活発にできるかということに悩んでいる。定例研究会もやや専門化しすぎたきらいがあり、昨年から支部大会というのを試みてみたが今後どのように発展させていくかが問題である。いまのところでは、経営工学会とか情報処理学会などの支部と横に協力して、少し大きい組織づくりを考えてはどうかと立案の段階である。会員の皆様方のご協力をお願いしたいと思っている。

中野 和夫

ミニマクス 昨年、私たちの業界で一大異変がありました。それはアメリカだけにCB(移動無線機)が、カラーテレビ以上の輸出量だったのが、突然ストップしたことです。

それまで23チャンネルの規格だったのが、7月末40チャンネルにふえたし、それとともに厳しい仕様が適用されることになりました。各社はテンヤワナンヤ、年内はまだ出るだろうと、生産を続けるところ、いや当分様子を見ようというところ、大騒ぎでしたが、現実にはキャンセルがあいつぎ、9月に入って潰れる会社が、出てきました。

そのときの各社の対策は、まさにドラマそのもので、“じゃお前のところはどうした?”

もちろん即日生産ストップ、まだ一生懸命つくっているところに、手配ズミの部品、材料をソーッと売りさばきました。

おかげで損失はほとんどなく、(つまりミニマクスです。)